LIVE REPORT

会場風景

4004
昭和電工

取締役 常務執行役員 CFO 武藤三郎氏

セミナー内容

化学のチカラで夢を「具体化」。

昭和電工は無機、有機、アルミの技術・素材を礎とした環境に優しい製品の提供により社会に貢献。
セミナーでは本年始動の中期経営計画「Project 2020+」を中心に電子材料用高純度ガスやリチウムイオン電池材料など当社の強みのある製品、その成長戦略についての説明が行われた。

世界トップクラスの技術で暮らしを多方面から支える総合化学メーカー

「石油化学」「化学品」「エレクトロニクス」「無機」「アルミニウム」「その他」の6つのセグメントで事業を展開。ハードディスク・黒鉛電極をはじめ、世界で高いシェアを誇る数々の製品を生み出し、化学のリーディングカンパニーの一つとして世界的地位を確立している。その製品は基礎製品・部材として、自動車、鉄鋼、建設、電気製品、繊維、医療、農業等幅広い分野で利用され社会に貢献。身近な例としては、スマートフォン等の電池材料やフラッシュメモリーの生産に用いられる高純度ガス、自動車の樹脂製ガソリンタンク等にその高度な技術が用いられている。また、ビールなどのアルミ飲料缶も、製缶から印刷まで一貫して製造、世界的に高い技術を誇っている。

中期経営計画「Project 2020+」を発表、「個性派事業」の拡充で収益基盤を強化

2016年1月始動の中期経営計画「Project 2020+」では、「インフラケミカルズ」「エネルギー」「移動・輸送」「生活環境」「情報電子」の5つの市場領域に高付加価値の製品・技術・サービスを提供。特に電子材料用高純度ガスなどの、一定の事業規模を持ち、高い収益性と安定性を維持している「個性派事業」は、次世代に向けて研究開発費の投入やM&Aの活用によりラインナップを強化、2025年にグループ売上高比率5割到達を目指す。また、中国で急速に伸長している車載用リチウムイオン電池材料や、成長著しいベトナム市場向けのアルミ缶などを中心に、海外売上高の拡大にも注力している。

飛躍が期待できる「成長加速事業」「優位確立事業」にリソースを集中

さらに、世界No.1シェアを誇る高純度臭化水素などの「電子材料用高純度ガス」や、ベトナムで2位の「アルミ缶」等を「成長加速事業」と位置づけ、アジアやASEANなど海外市場の成長を見据えて事業規模を拡大。また、出荷量が大幅に増加している「リチウムイオン電池材料」と「パワー半導体SiC」を「優位確立事業」とし、技術開発と市場拡大を進め競争優位性の高いビジネスモデルの確立を図っている。2事業分野とも引き続き高度な機能を追求し「個性派事業」へと成長させ、2018年には「成長加速」「優位確立」両事業の営業利益を2015年の2倍以上の年間150億円超、2020年には年間200億円程度まで拡大を目指す。

化学とユニークな発想で豊かさと持続可能な未来を「具体化。」

昭和電工グループは、環境への負荷低減や情報化社会の進化を化学の力で「具体化。」することをスローガンに掲げ、省エネ技術の研究開発を推進している。中でも使用済みプラスチックをケミカルリサイクルする事で得られる水素を使ったアンモニアは、その製造プロセスが昨年世界で初めてエコマーク認定を取得、生産設備は京浜工業地帯の「工場夜景」として地域に親しまれている。その他、野菜工場向け部材やアルミ缶リサイクル活動などにも取り組んでいる。今後も引き続き、温室効果ガス排出削減や資源循環型事業を通して、持続可能な社会の構築に貢献し、心地よい暮らしの実現を目指す。